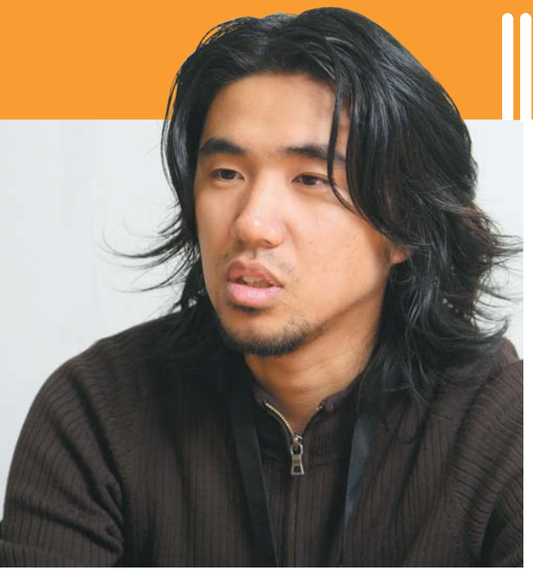
PR

NetIQ　システム監視ソリューション「AppManager」導入事例

カブドットコム証券株式会社

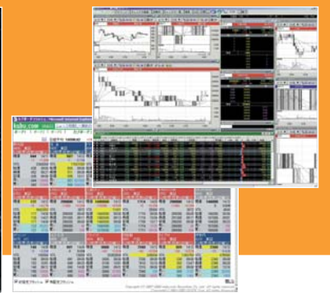


アクセス数急増の中、260台のサーバ群をわずか数名で運用管理
お客様の思いに応える高度なSLMに貢献

株式市場が活況を呈している。その牽引役が、インターネットを使った個人投資家の拡大だ。手数料が自由化された1999年にサービスを開始したカブドットコム証券株式会社（以下、カブドットコム証券）は、多くの競争会社がひしめく中、逆指値、SLA、自動売買など業界に先駆けて独自のサービスを次々と打ち出し、ネット証券のリーディングカンパニーとしてのポジションを築いた。その成長を支えるシステムの運用管理は、わずか数名のスタッフが行っている。少人数で、お客様の思いに応える高度なSLM（サービスレベル管理）実現の陰に、NetIQのシステム監視ソリューション「AppManager」の存在がある。

カブドットコム証券株式会社　システム統括部 情報技術課 課長
谷口 有近 氏（Microsoft MVP for Windows Server System-Infrastructure Architect）



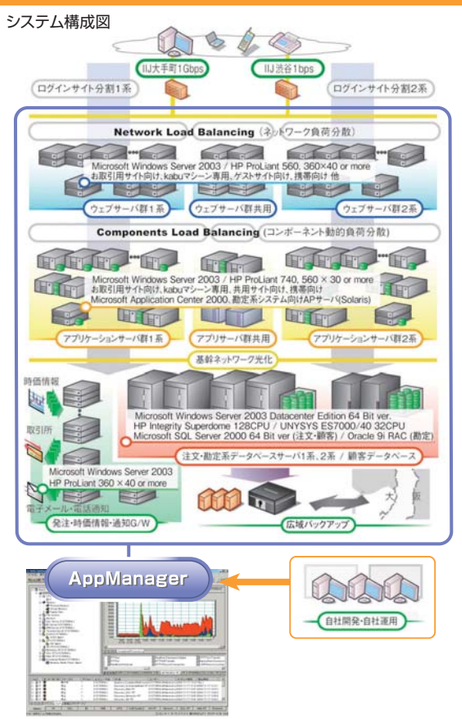


PROFILE

カブドットコム証券株式会社

本店所在地 ： 〒104-0033
東京都中央区新川1-28-25
東京ダイヤビルディング3号館
代 表 者 ： 取締役 代表執行役社長 齋藤 正勝
証券業登録 ： 関東財務局（証）第161号（2000年2月1日）
設　　立 ： 1999年11月19日
資 本 金 ： 71.3億円（資本準備金 118.4億円）
従業員数 ： 64名
事業内容 ： 「リスク管理追求型」をコンセプトにサービス展開する、三菱UFJフィナンシャル・グループのネット専業証券

システム構成図



全システムを自社開発・運用する唯一のネット証券

ネット証券業界のキーカンパニー、カブドットコム証券は2006年1月、Meネット証券株式会社と合併し口座数約46万口座、預り資産1兆円を超えるなど顧客基盤の一層の拡大を実現した。また同社は三菱UFJフィナンシャル・グループのネット専業証券であることから、2006年4月の銀行法改正に伴う新たなサービス展開にも注目が集まっている。

同社の急成長のベースには、「負けたくない、儲けたい」と願うネット個人投資家の思いに応えていくという、シンプルではあるが、顧客重視に徹した基本的な考え方がある。この考え方を推し進めたものが、お客様の投資成績を重視する「リスク管理追求型」という同社の事業コンセプトだ。このコンセプトはネット証券の根幹となるシステムにも活かされている。

「創業当初、リスク軽減に役立つ逆指値というサービスをどうしても実現したいということがありました。そのためにはフロントオフィスとバックオフィスの両方を自社開発・運用することが不可欠でした」と、同社システム統括部　情報技術課の谷口有近氏は語る。競合他社がコスト面からバックオフィスをアウトソーシングする中、同社はバックオフィスを含む全システムの自社開発・運用にこだわった。「バックオフィスをアウトソーシングするとフロントオフィスとのインターフェースの自由度がどうしても損なわれてしまいます。新しいサービスをスピーディに市場へ提供するためにも必須の要素です」（谷口氏）

24時間365日、少人数での安定運用を支える「AppManager」

現在、株式市場で扱うデータ量は加速度的に増大している。同社のシステムからお客様へデータが送信されるアウトプット量でみると、2005年11月末では300Mbpsだったのが、2006年1月のライブドアショック直後には480Mbpsを記録。「これは前年度の一年分のアウトプット量をわずか2ヶ月で消費したことに匹敵する」（谷口氏）。同社はデータ量増大への対応として2006年1月1日にサーバを増強していたのでこれに対応できた。

同社のシステムは、Windows Server 2003を中心とするN階層システムだ。現在（2006年3月末時点）、260台のサーバが稼動している。また、パソコン、携帯電話、電話などマルチチャンネル化も実現。加速度的に増えるデータ量のもと、260台のサーバ、マルチチャンネル、バックオフィスを含む全システムの運用管理を、わずか3名のスタッフ（開発系13名を加えても16名）で担っている。24時間365日、少人数での安定運用を可能にしているのが、名実ともに運用管理ツール分野をリードするNetIQ社のシステム監視ソリューション「AppManager」だ。

同社は創業当初から「AppManager」をシステム監視のベースに活用している。「当社のシステム運用管理の基本は、すべてのサーバ、すべてのアプリケーションがイベントログを書き出すことにあります」（谷口氏）。「AppManager」は全イベントログを収集、監視し、システム障害の発生や、その予兆があったときに警告を出す。「当社では原因を追いやすくするため、様々にエラー通知が出力されるようにしています。通知の件数をカウントして問題点を指数化しトラブルを未然に防ぐ上でも「AppManager」は役立っています。大量の通知を処理するパフォーマンスもたいへん優れています」と、谷口氏は力強く語る。

完璧なシステムというものは余り現実的ではない。またアクセス数の急激な増大など想定しない問題も発生する。トラブルが起きたときの初動体制にも「AppManager」は有効であると谷口氏はいう。「イベントログをキーにして複雑な動作をさせることができるのも「AppManager」の便利なところです。例えば、あるエラーの発生した数分後にサーバを使えなくなるという事例が起きたことがあります。すぐに、そのエラーが発生したときに、エラーが発生したWebサーバを自動的にオフラインにする仕組みをつくりました。それに要した時間は「AppManager」を使って約30分でした」（谷口氏）。さらに「問題が発生したら、まず初動体制として運用で対応する。その後、落ち着いて本格的な対応に取り組む。大事なのはシステムが止まらないことではなく、サービスを止めないことです。こうした運用ポリシーに「AppManager」は非常に合っています」と、谷口氏は明快に語る。

低コストで簡単に、なおかつより高い水準のSLMの実現へ

同社では、2002年11月に国内証券で初めてSLA（Service Level Agreement＝サービス品質保証制度）を導入している。株式注文の執行時間（5分）を保証し、遅延の際は差額を返却する。「SLAを可能にしているのは、「AppManager」で常時監視し、それを自社で開発・運用しているスタッフが見ていればこそです」（谷口氏）。誰もが使いやすい「AppManager」をベースに、運用管理のフローを築くことで運用管理のクオリティの均一化も図れる。またAppManager6.0のファミリー製品「AppManager Performance Profiler」についても、パイロット導入テストが実施され、満足する結果が得られている状態だ。本格導入後のサービスレベル向上に大きな期待が寄せられているとともに、システムレポートの開示を重視する同社では「開示の前提としてまず経営層に対して説明するためのレポート作成面でも有効なツール」（谷口氏）と別な側面での評価も高い。

今後も法律・制度の改正が予定されており、証券業界は大きな変化の渦の中にある。「当社も変化に応えて新しい仕組み、新しい横断的なサービスを次々と打ち出していくことになります。そのためにシステムも進化していく。そうした中で、いかに低コストで簡単に、かつより高い水準のSLMを実現していくか。お客様の気持ちになり「お客様の顔が見えるシステム」を運用管理の基本に据え、特に未知のエラーが発生した際のSLAは相当難しいので、そうした視点も含めて今後も「AppManager」と付き合っていきたいと思います」と、谷口氏は将来を見据えて語る。

NetIQ
ネットアイキュー株式会社
〒162-0845　東京都新宿区市谷本村町1-1 住友市ヶ谷ビル12F
TEL：03-5206-9500　FAX：03-5206-9501　e-mail：info-japan@netiq.com　URL：http://www.netiq.co.jp

※NetIQ, AppManager及びNetIQのロゴは、米国NetIQ Corporationの商標です。 ※この文書で使用されているその他の企業名はあくまでも指摘を行うことを目的としており、それらは一般にそれぞれの所有者に帰属する商標及び登録商標です。